とみいし会報

富石分教会チャンネル

晴天の心

立教１８９年１月号
大阪府富田林市寿町 4-9-10
URL:www.tomiishi.net
TEL:0721-23-3466　090-5243-4669

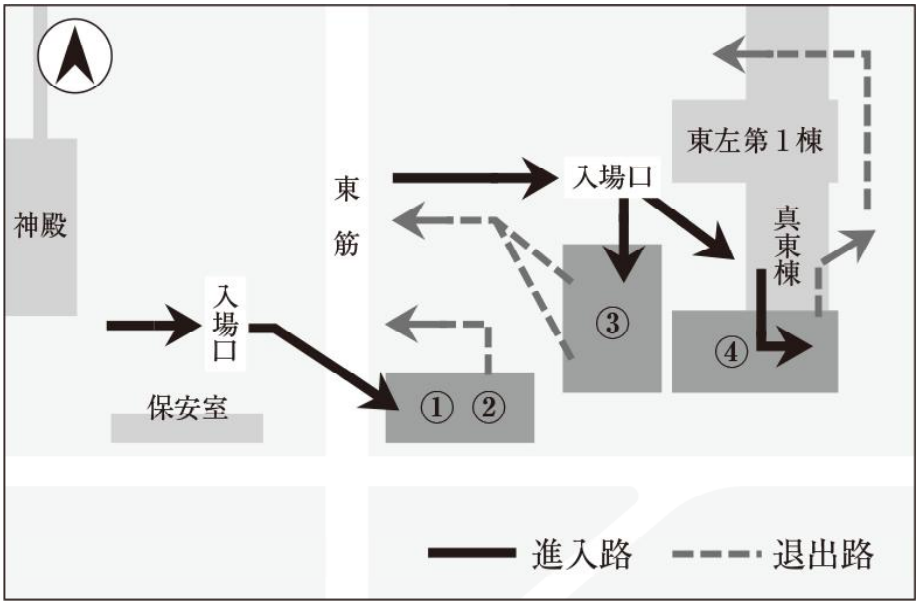
とみいしホームページ

春季大祭　１月１９日（月）午前１０時～
婦人会例会　1月 9日（金）午前10時～
教祖１４０年祭
１月２６日（月）１０時３０分執行

「晴天心」１１月１６日撮影
１１月１５日に石川分教会にて、前石川分教会長豊田房江様、十三分教会長豊田千秋様、豊田茂雄様の年祭を務めました。そのご報告を兼ねておぢばがえり。
北礼拝場で、おつとめ後教祖殿でおやさまに前日のお礼を申し上げました。
この日は雲一つない晴天。１１月半ばとは思えないほどの暖かい日差しを受けて教祖殿が輝いていました。この日は、団参や結婚式などで、神苑も多くのおぢばがえりの人たちで賑わっていました。明るい澄み渡った空に、参拝されている人たちの笑顔が広がって陽気遊山が実現しているなぁと感じました。
来る１月２６日には教祖１４０年祭が執り行われます。
このときに向けてそれぞれに、精一杯つとめてきたこと、また、思ったようには出来なかったこと、一人ひとりの心の中にあることでしょう。
親神様、おやさまは、そのすべてを受け取って返してくださることでしょう。
何ができたか、ではなく、どれだけ思いを込めて行ってきたのかが、実は大切なのでしょう。どうぞ、年祭当日、おぢばへ帰り参拝する際に、届きませんでしたと言うのではなく、この年祭に向けてこのことを心がけて行ってきました。どうぞ、お受け取り下さいと述べたいと思います。それがどんなに些細なことでもいいと思います。出来なかったとうつむいて下を向いて自分を卑下して陰気に参拝するのは、辛気くさいと親神様・おやさまに好かれないと思います。上を向いて胸を張ってかぐらつとめを精一杯思いを込めて唱和する方がきっと大きく受け取っていただけます。陽気に勇んで笑顔でおぢばに帰りましょう。

本部立教 189 年 正月行事案内
元旦祭　1 月 1 日午前 5 時　本部神殿
鏡開き　1 月 4 日午前 8 時 30 分　西礼拝場
別席　別席は 1 月 2 日午前 8 時から平常通り、
　　おやさとやかた東左第 1 棟で受け付けます。
　　※なお、年末 12 月 28 日から 1 月 1 日までの
　　別席はございません。
お節会
【期日】1 月 5 日（月）、6 日（火）、7 日（水）
【時間】午前 10 時～午後 1 時
【会場】①第 1 会場（第 1 食堂）、②第 2 会場（第 2 食堂）、
　　③テント会場（おやさとやかた東右第 1 棟西側）、
　　④やかた会場（おやさとやかた東右第 1 棟 2 階、3 階、地下 1 階）

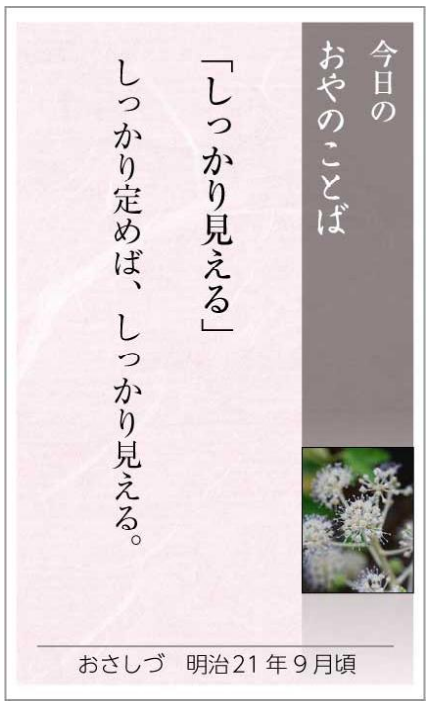
お節会会場案内図



※団体会場と一般会場の別はありません。
　会場出口において、袋入りのお下がりのお餅をお渡しします

※教会としての団体参拝は計画していません。教会で何枚かは用意してお配りしますが、不足分は、個人券を詰所で配布していますので、事務所で「とみいし分教会です、何枚下さい」と、申し出て下さい。
よろしくお願いします。

・・・



　日照時間がどんどん短くなり、1 年のうちで最も夜明けの遅い時期になってきました。
　少しずつ明るくなっていく東の空を眺めながら、体を思いっきり伸ばして深呼吸すると、早朝の冷たい空気が体じゅうに染みわたるのを感じます。吸い込んだ空気を思いっきり吐き出すと、白い息がまるで機関車の煙のように見えました。
　毎日の生活の中で、いつも呼吸をしているのですが、普段は呼気を目にすることはありません。白い煙のような息を両手に受けとめながら、いつもは忘れてしまいがちな親神様のご守護に、あらためて感謝する気持ちが湧いてきます。
　　「しっかり定めば、しっかり見える」
　教祖を通して伝えられた親神様の教えをしっかり心に治め、いつも変わらず、そこにある親神様のご守護に気づき、生かされていることへの感謝と喜びの心が芽生えるとき、目に映る世界に変わりはなくても、心に映る世界は変わってきます。今日も昨日と同じように、こうして生きているということは、決して当たり前のことではないのです。
　もう東の空が、かなり明るくなってきました。どうやら今日は晴天のようです。
　心配ごとや悩みの種は尽きませんが、今日もこの世界は親神様のご守護に満たされていることを忘れずに、かけがえのない一日を大切に過ごしたいものです。（岡）

・・・

おさしづ原文　　明治二十一年九月頃（陰暦八月）（陽暦九月六日乃至十月四日）

東文吉妹いし十二才身上願

さあ／＼尋ねるからしっかり聞き分け。今一時でない。前一つの処よく思やんせよ。身上どうなるこうなる。皆前々のいんねんである。これだけ信心すれども、未だ良うならん、と思う心は違う。早く心を取り直せ。

一夜の間にも心入れ替え。*誠真実という心定めて、三日の日を切りて試せ。*

しっかり定めば、しっかり見える。

早く聞いて踏み留め、とのさしづ。

・・・

コールドムーン　12 月 7 日朝 6 時頃撮影

2025 年 12 月最後の満月を撮影するきっかけとなったのは、グレープの最新曲の一つ「残月」。

朝つとめの後、洗濯を干すのは私の役目。

この時期になると、日の出前に洗濯を干すことになり、冷えたときは干してすぐに凍てつくときもある。日の出を待ちながら西の空を見ると、見事な月がまだ残っている。

陽が昇り太陽の光が強くなるまでの時間、晴れた空に大きく浮かぶ残月を見ると、なぜか心がすっとする。

そんな残月を二上山と重なるように写真に残したいという思いで撮影に出かけた。

少し早めにおつとめを済ませ、まだ暗い中を竹ノ内峠を越えて当麻寺。そして、二上山の姿が美しく映る池へ。月明かりを頼りに池の端で三脚を出してカメラを準備する。月明かりだけが頼りだ。なるほど、満月の月明かりは目がなれると本当に明るい。

しばらくすると、東の空がオレンジ色に泥んでくる。

今日も雲一つ無い晴天のようだ。気がつくと月明かりではなく日の出前なのに、太陽の光の方が強く明るくなってきている。ついさっきまでシルエットだった二上山の山肌の紅葉が朝日に照らされてより紅く燃えている。月はどんどん薄くなっていく。

自然と対峙しているとその待っている時間に、様々な事を考え思い出す。

十五夜の月明かりが、昔の人にとっていかに大切なものだったのか、日の出とともに活動することで、明かりの大切さを肌で感じていたと思う。

今は電気によって、闇夜のような真っ暗な夜はなかなかない。電気の明かりがあるのが当たり前になっている。しかし、現在、これだけ自然災害が多発すると、その地域では一瞬にしていつものことが出来なくなってしまう。電気が止まり停電になると、ほぼありとあらゆるものが動作しなくなる。

そしてそれに柔軟に意識を変えて対応できるかは、実はいつも物事を多角的に捉える思考をして物事に対処しているのかが、問われるのだと思う。

いざとなったときに、うまく心を切り替えてしっかり見極めて行動することが、たすかる道筋なのだと思う。

現在、教祖百四十年祭を目指して、全国各地で年祭活動がつとめられています。この旬に、教祖ゆかりの品などを中心とした特別展示「おやさま」を開催します。

内容　教祖ゆかりの品、写真パネルの展示など

開催期日

令和７年：12 月 25 日㈭・**26 日㈮**　　※毎月 26 日は午後１時より開催

令和８年：１月 24 日㈯・25 日㈰・26 日㈪・27 日㈫

※１月 26 日は午後２時 30 分から４時 30 分までの開催となります

時間　午前 10 時より午後３時まで　　場所　南右第２棟

日程が限られています、是非この機会におぢばがえりしてこころの支えにしてください。

・・・

この月報は 12 月 19 日より前に作成しています。少し早いですが、今年を振り返ってみると、世間では、今年の漢字でも取り上げられた「熊」のニュースが、飛び交いどこで出会うかも判らない恐怖が全国に広がりました。

我が家、および教会としての今年のニュースは、母・節子が昨年 2014 年 12 月に家の廊下で転けて骨折から入院となりケアマネージャーなどとの相談した結果、介護付マンションへ２月から入居したこと。

次の大きなニュースは付属建物のバルコニーの軒天が剥がれて落下したこと、それに伴い修理と外壁塗装を９月に行ったこと。

この工事をするために、建物周辺の大ゴミをすべて廃棄。

工事完了後は、それ以外の場所の大掃除を行った。特に物干しから北側旧玄関にかけて、置いてあった使わなくなった畑道具などを分別して整理。井戸周辺から北側玄関付近を防草対策を行った。これによって、北側が綺麗になって通路が確保でき、畑としていた場所との区切りが明確になった。

８月会長が本部登殿参拝。かぐらつとめを間近で見せて頂き一所懸命唱和しました。

11 月 30 日に行われた大教会おつとめ学び総会に、真理恵が胡弓で参加。

ようぼく一斉活動日の会場ひのきしんに５回皆勤参加。

2025 年 11 月末から、十津川生まれの子猫の三毛猫を預かり、５月に成長報告に行ったときにもう１匹子猫を預かって、どちらも今ではやんちゃに育っています。

１年間、大難を小難、小難を無難に通らせて頂けたなぁと、振り返りながら親神様、おやさまに感謝する次第です。

教祖逸話編　132.おいしいというて

中田、山本、高井など、お屋敷で勤めている人々が時々近所の小川へ行って雑魚取りをする。そして泥鰌モロコ、エビなどを捕ってくる。そしてそれを甘煮にして教祖のお目にかけると教祖はその中の一番大きそうなのをお取り出しになって子供にでも言うて聞かせるように「みんなにおいしいというて食べてもろうて、今度は出世しておいでや。」と仰せられそれからおそばにいる人々に、「こうして一番大きなものに得心さしたら後は皆得心する道理やろ」と仰せになり、さらに又、「みんなも食べるときには、おいしいおいしいという手食べてもろうたら、喜ばれた理で今度は出世して生まれ変わる度ごとに人間の方へ近くなってくるのやで。」とお教え下された。各地の講社から兎、キジ、山鳥などが供えられてきたときも、これと同じように仰せられたという。